

教員資格及び教育内容等の自己評価書  
聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科

2023年10月

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数	助手			
リハビリテーション学部 作業療法学科	4人	1人	0人	4人	9人	7人	8人	0人	53人	13.3人	
計	4人	1人	0人	4人	9人	7人	8人	0人	人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	聖隷の理念と歴史	15	入江拓、大場義貴、内山敏、栗田洋平	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	キリスト教概論	15	永井英司	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	キリスト教の歴史	8	永井英司	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	哲学	15	長田怜	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	文学	15	福重浩之	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	心理学	15	長峰伸治	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	倫理学	15	長田怜	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	ジェンダー論	15	須藤八千代	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	生活福祉文化論	15	坂本道子	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	レクリエーション概論	15	和久田佳代	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	音楽	15	二宮貴之	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	健康スポーツ論	8	安田智洋	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	健康スポーツ実践	15	安田智洋	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	スポーツ I	15	安田智洋	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間と生活・社会の理解	スポーツ II	15	大村千春	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	法学	15	伊夢瑛	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	日本国憲法	15	伊夢瑛、山岸敬子	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	経済学	15	白春騷	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	教育学	15	太田知実	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	社会学	15	馬場孝	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	現代コミュニ ティ論	15	下澤嶽	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	生物学	15	熊澤武志	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	基礎化学	8	大場浩	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	基礎物理学	8	津森伸一	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	統計学・疫学 概論	15	西川浩昭、隆朋也	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	社会福祉原論	15	川向雅弘	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	基礎演習	15	新宮尚人、津森伸一、飯田 妙子、鈴木達也、矢倉千 昭、佐藤豊展、佐藤綾華	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	発達心理学	15	松下恵美子	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	日本語表現法	15	福重浩之	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	情報処理	15	津森伸一、隆朋也	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	データサイエ ンス入門	15	隆朋也、津森伸一	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	保健医療福祉 倫理学	8	伊藤信寿、泉良太、矢倉千 昭	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	キャリアデザ イン	8	金原一宏、佐野哲也、佐藤 豊展	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	英語 I	15	パターソン・ドナルド、ク ラモト・クリスティーン、 渥美陽子、ディニコラ・ア ン、アキオマ・ミリアン、 ウィリアム・シーン・ギブ	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	英語 II	15	パターソン・ドナルド、ク ラモト・クリスティーン、 渥美陽子、ディニコラ・ア ン、アキオマ・ミリアン、 ウィリアム・シーン・ギブ	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	入門リハビリ テーション英 語 (英語 III)	15	クラモト・クリスティー ン、渥美陽子	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	英語Ⅳ	15	渥美陽子、パターソン・ド ナルド	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	英語Ⅴ	15	パターソン・ドナルド	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	中国語	15	方健	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	外国語	15	矢倉千昭	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	海外研修	15	パターソン・ドナルド、渥 美陽子、クラモト・クリス ティーン、二宮貴之、落合 克能、鈴木達也	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	ブラジル文化 と言語	15	アキオマ・ミリアン	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	現代の国際社 会	15	馬場孝	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	文化人類学	15	佐藤弘明	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	国際支援入門	8	柴本勇	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	国際支援論	8	下澤嶽	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	国際支援アク ティブラーニ ングⅠ	15	柴本勇、木村暢男、水野尚 美、高橋大生	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	国際支援アク ティブラーニ ングⅡ	15	柴本勇、内藤智義、鈴木光 男、大原重洋	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	地域ケア連携 の基礎	8	清水隆裕、早川ゆかり、篠 崎義勝、福重浩之、矢部広 樹、佐藤綾華	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	地域実践アク ティブラーニ ングⅠ	15	矢倉千昭、黒野智子、氏原 恵子、山崎淑恵、江口晶 子、佐藤順子、佐々木正 和、大場義貴、和久田佳 代、鈴木光男、伊藤信寿	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	地域実践アク ティブラーニ ングⅡ	15	矢倉千昭、黒野智子、氏原 恵子、山崎淑恵、江口晶 子、佐藤順子、佐々木正 和、大場義貴、和久田佳 代、鈴木光男、伊藤信寿	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	地域実践アク ティブラーニ ングⅢ	15	矢倉千昭、黒野智子、氏原 恵子、山崎淑恵、江口晶 子、佐藤順子、佐々木正 和、大場義貴、和久田佳 代、鈴木光男、伊藤信寿	専任・兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	ボランティア 論	8	福田俊子	兼任
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	ボランティア 演習	15	太田知実、坂本道子、栗田 洋平	専任・兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
基礎	科学的思考の基盤・人間 と生活・社会の理解	大学間交流授 業	15	矢倉千昭	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	解剖学	15	顧寿智	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	運動器解剖学	15	顧寿智	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	神経解剖学	15	顧寿智	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	人体機能学 (動物性機 能)	15	大林雅春	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	人体機能学 (植物性機 能)	15	大林雅春	兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	運動学Ⅰ	15	根地嶋誠、佐野哲也	専任・兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	運動学Ⅱ	15	根地嶋誠、矢倉千昭、矢部 広樹、佐野哲也、津森伸一	専任・兼任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	運動学演習	15	泉良太、佐野哲也	専任
専門基礎	人体の構造と機能及び心 身の発達	人間発達学	15	伊藤信寿、吉本好延、大原 重洋	専任・兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	病理学概論Ⅰ	8	大林雅春	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	病理学概論Ⅱ	8	大林雅春	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	臨床心理学	15	高柳弘行	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	臨床医学・医 療学概論	8	佐藤豊展、矢倉千昭、伊藤 信寿、柴本勇、片桐伯真	専任・兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	内科系医療学	15	矢部広樹、高橋大生、岡俊 明、横村光司、松島秀樹、 北川哲司、志智大介、長澤 正通	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	整形外科系医 療学	15	佐々木寛二、阿部真行、神 田俊浩、塩崎太郎、滝正 徳、三宅央哲、野坂潮、遠 藤浩一、船越雄誠、石井啓 介	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	神経内科系医 療学	15	大橋寿彦、内山剛、佐藤慶 史郎	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	精神医学系医 療学Ⅰ	8	新宮尚人、藤田さより、山 岡功一、三浦一也	専任・兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	精神医学系医 療学Ⅱ	8	飯田妙子、新宮尚人、藤田 さより	専任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	小児科系医療 学Ⅰ	8	白井憲司、松下博亮、南野 初香、吉村歩、今市悠太郎	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及 び回復過程の促進	小児科系医療 学Ⅱ	8	白井憲司、松下博亮、南野 初香、村上知隆、板野亜 弓、荻田薫	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則  教育内容	相当授業  科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	リハビリテーション栄養学	8	柴本勇、高山真希	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	公衆衛生学	8	西川浩昭	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	摂食嚥下障害学概論	15	佐藤豊展、柴本勇、佐久間 佐織	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	薬理・薬剤	15	梅村和夫、外村和也	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	ケアマネジメント	15	落合克能	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	カウンセリング	15	高柳弘行	兼任
専門基礎	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	音楽療法	15	山田美代子	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション概論	8	新宮尚人、有菌信一、伊藤 信寿、谷哲夫、木村暢男、 大場義貴	専任・兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医療・ 医学Ⅰ	8	片桐伯真、藤島一郎	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医療・ 医学Ⅱ	8	片桐伯真、藤島一郎、井上 善也	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション職種間 連携の基礎	8	大原重洋、矢倉千昭、高橋 大生、栗田洋平、伊藤信 寿、佐藤綾華	専任・兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	地域ケア連携 演習	15	福田俊子、室加千佳、氏原 恵子、木村暢男、宮谷恵、 大場義貴、坂本道子、矢倉 千昭、藤田さより、谷哲夫	専任・兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	国際リハビリテーション援助論	15	高橋大生、柴本勇、根地嶋 誠	兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	国際リハビリテーション研 修	15	鈴木達也、高橋大生、根地 嶋誠	専任・兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	国際コミュニケーション演 習	15	鈴木達也、高橋大生、モー テン	専任・兼任
専門基礎	保健医療福祉とリハビリテーションの理念	国際保健医療 福祉論	15	根地嶋誠	牽引
専門	基礎作業療法学	作業療法概論	15	伊藤信寿、泉良太、藤田さ より、鈴木達也、飯田妙 子、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	基礎作業療法学	研究法入門	15	泉良太、伊藤信寿、藤田さ より、新宮尚人	専任
専門	基礎作業療法学	作業科学と作 業療法	15	鈴木達也、泉良太、栗田洋 平	専任
専門	作業療法評価学	作業療法評価 学総論	8	飯田妙子	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門	作業療法評価学	作業療法評価学演習	30	藤田さより、泉良太、鈴木達也、飯田妙子	専任
専門	作業療法評価学	身体領域作業療法評価学	30	泉良太、佐野哲也、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、伊藤信寿、栗田洋平	専任
専門	作業療法評価学	高齢期作業療法評価学	15	栗田洋平、鈴木達也	専任
専門	基礎作業療法学	基礎作業学	30	飯田妙子、藤田さより	専任
専門	作業治療学	作業技術学	15	藤田さより	専任
専門	作業治療学	神経系作業療法学	30	泉良太、佐野哲也	専任
専門	作業治療学	運動器系作業療法学	30	佐野哲也、泉良太	専任
専門	作業治療学	日常生活活動技術学	15	泉良太、佐野哲也	専任
専門	作業治療学	日常生活活動技術学実習	23	佐野哲也、泉良太、伊藤信寿	専任
専門	作業治療学	高次脳機能障害学	30	鈴木達也	専任
専門	作業治療学	精神領域作業療法学の基礎	30	新宮尚人、藤田さより、飯田妙子	専任
専門	作業治療学	精神領域作業療法学の応用	15	藤田さより、飯田妙子	専任
専門	作業治療学	発達領域作業療法学の基礎	15	伊藤信寿、飯田妙子	専任
専門	作業治療学	発達領域作業療法学の応用	30	伊藤信寿、飯田妙子	専任
専門	作業治療学	高齢期作業療法学	30	栗田洋平、鈴木達也、藤田さより、佐野哲也	専任
専門	作業治療学	高齢期作業療法学演習	15	鈴木達也、栗田洋平	専任
専門	作業治療学	精神領域作業療法学演習	15	藤田さより、飯田妙子	専任
専門	作業治療学	発達領域作業療法学演習	15	伊藤信寿、飯田妙子	専任
専門	地域作業療法学	地域作業療法学	15	藤田さより、伊藤信寿、飯田妙子、栗田洋平	専任
専門	地域作業療法学	職業リハビリテーション学	15	藤田さより	専任
専門	臨床実習	臨床作業療法基礎実習	45	佐野哲也、鈴木達也、飯田妙子、栗田洋平	専任
専門	臨床実習	臨床作業療法応用実習	90	鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	臨床実習	臨床作業療法評価実習	360	泉良太、伊藤信寿、藤田さより、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	臨床実習	臨床作業療法総合実習Ⅰ	315	藤田さより、伊藤信寿、泉良太、鈴木達也、飯田妙子、佐野哲也、栗田洋平	専任



分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・兼 任)
専門	臨床実習	臨床作業療法 総合実習Ⅱ	315	藤田さより、伊藤信寿、泉 良太、鈴木達也、飯田妙 子、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	臨床実習	作業療法学内 総合実習Ⅰ	45	鈴木達也、伊藤信寿、泉良 太、藤田さより、飯田妙 子、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	臨床実習	作業療法学内 総合実習Ⅱ	45	泉良太、伊藤信寿、藤田さ より、鈴木達也、飯田妙 子、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	作業療法管理学	作業療法教育 マネジメント 論	15	藤田さより、鈴木達也、栗 田洋平	専任
専門	基礎作業療法学	卒業研究	30	飯田妙子、伊藤信寿、泉良 太、鈴木達也、藤田さよ り、佐野哲也、栗田洋平	専任
専門	地域作業療法学	国際作業療法 実習	45	鈴木達也	専任
専門	作業治療学	レクリエーシ ョン演習	15	泉良太、伊藤信寿	専任
専門	作業治療学	絵画療法	15	中道芳美	兼任
専門	基礎作業療法学	発展的作業療 法学	8	泉良太、伊藤信寿、藤田さ より、鈴木達也、飯田妙 子、佐野哲也、栗田洋平	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
作業療法基礎実習	1 年秋	リハビリテーション概論・ 作業療法概論	1 年春
作業療法応用実習	2 年秋	作業療法評価学総論・演習 精神領域作業療法の基礎、 神経系作業療法学 高齢期作業療法学 発達領域作業療法の基礎 高次脳障害学	1 年秋 2 年春 2 年秋 2 年秋 2 年秋 2 年秋 2 年春
臨床作業療法評価学実習	3 年秋	高齢期作業療法評価学 身体領域機能作業療法評価学 精神領域作業療法の応用 発達領域作業療法の応用	3 年春 3 年春 3 年春 3 年春
臨床作業療法総合実習 I, II	4 年春	作業療法学内総合実習 I 精神領域作業療法演習 発達領域作業療法演習 高齢期作業療法演習 職業リハビリテーション学 地域作業療法学	3 年秋 3 年秋 3 年春 3 年春 3 年春 3 年春

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	リハビリテーション学部自己点検・評価委員会
委員名（委員長）	吉本好延（委員長）、新宮尚人、有菌信一、伊藤信寿、谷哲夫、柴本勇、泉良太、津森伸一、藤田さより、鈴木達也
組織の開催頻度	1年に3回
組織の取り組み内容	・教育・研究活動の目標の到達度の点検・評価と目標の見直しの検討
	・学生による授業評価の実施と結果のフィードバック（教務委員会）
	・教育改善のための研修会の実施（FD委員会）
自己点検・評価結果の公表	HPで公表（URL： <a href="https://www.seirei.ac.jp/about/disclosure/self-check/#277af945">https://www.seirei.ac.jp/about/disclosure/self-check/#277af945</a> ）

【自己評価 4-2】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバス作成要領の見直し、及びシラバス点検
	委員構成等	教授会、教務運営会議構成員
	改善の仕組みの実際	シラバス作成要領を毎年教務運営会議で見直し、教授会で確認している。シラバスは毎年作成時シラバスチェックシートを用いて教務委員、学科長が確認を行い、適宜修正を依頼してシラバス内容改善に努めている。

【自己評価 4-3】 自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

2017年3月、財団法人大学基準協会の行う大学認証評価において、本学が大学評価の基準に適合しているとの認定を受けた（<https://www.seirei.ac.jp/media/juaa.pdf>）。

また、2023年3月、一般社団法人リハビリテーション教育評価機構が行う教育評価認定審査において、機構が定める評価基準を満たし、リハビリテーション教育に必要な施設基準およびカリキュラムを提供する優れた養成施設であると認定を受けた（[https://www.seirei.ac.jp/media/jcore\\_wfot20230101-20271231.pdf](https://www.seirei.ac.jp/media/jcore_wfot20230101-20271231.pdf)）。

点検・評価の結果は、学科長および各担当部門で周知され、必要に応じて対策が検討されている。また、学部の点検・評価の結果は、全学の自己点検・評価委員会にも報告され、大学全体で問題点を共有した後、必要に応じてシステムの見直しが検討されている。